

平成 28 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	植物新種誕生の原理—生殖過程の鍵と鍵穴の分子実態解明を通じて—
領域代表者	東山 哲也（名古屋大学・理学研究科(WPI)・教授）
研究期間	平成 28 年度～平成 32 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、近年急速に進展した植物の生殖分野において世界をリードする業績を誇る研究者が集まり、新たなブレークスルーとして異種植物種間の交雑による新種誕生を目指す、革新的で野心的な提案である。植物生理学、分子遺伝学、有機合成化学、ライブイメージング、構造生物学と多岐に渡る研究手法の効果的な融合が図られ、壮大な研究ゴールに向けて具体的な実験計画を立案・遂行していくことを可能にする強力な研究体制となっている。研究の先端性や国際的な優位性も顕著である。研究目的の学術的な重要性は高く、植物の生殖隔離の原理が解明されると期待される。応用面に関して、農作物の新品種誕生など植物新種の形成が達成されるかどうかは不明確な点もあるものの、新品種育種に向けて重要な異種ゲノム融合の原理が明らかになり、農学・育種・食糧生産等の分野にも波及効果が及ぶことが期待できる。過去の複数の関連研究の発展として妥当な研究計画である。</p> <p>一方で、これまでに大型研究費の代表として極めて優れた成果を上げた実績を有する領域代表者には、異分野融合による成功ノウハウを領域全体に広めて推進していく上で強いリーダーシップを発揮されることが期待される。また、名古屋大学 WPI 拠点関連の研究者が異分野融合の中核を担う組織体制になっているが、これらの研究者の役割を重視し、より密接・実質的に計画研究に参画することや、WPI 拠点に現存する最先端の顕微鏡関連設備の効果的な共用を検討することが望まれる。</p>